

真応寺



本堂外観



本堂内陣

真応寺のルーツは、北陸の越前国（福井県）にあります。

一五七五年、越前国丹生郡の天台宗真入院は朝倉攻めの織田信長の軍勢によって破壊されました。一五九一年村の人々の願いによって本願寺に帰依改宗し、浄土真宗の道場として再建され、一六八四年真光寺と号し、浄喜師が開基住職となりました。その後、三百有余年、時には寺運の隆替はありましたが、法灯連綿として絶えることなく、聞真実功德の法を深信するお念仏の道場として今に至っています。明治大正期に華嚴経学を研究し勸学職を授けられた熱田霊知師は、真光寺第一六代住職であり、真応寺住職熱田英明の祖父に当たります。

真光寺一七代住職の四男である熱田英明は、昭和五十五年四月、福井から上京した首都圏在住の門信徒のために、現在地において「真光寺分院」を創建しました。その後、平成四年九月には本山より非法人教会「真応教会」の寺号公称を許可され、さらに、平成七年三月、埼玉県知事より「規則認証書」を受けて宗教法人登記が完了し、本山より宗教法人「真応寺」の寺号公称を許可されました。平成十六年五月五日には、組内ご寺院の皆様のお力添えをいただき、念願の新本堂の落慶法要を勤修させていただきました。

真応寺では、年間の主な行事として、元旦会（一月一日）、春季彼岸会（三月）、花まつり（四月）、永代経法要（六月）、歓喜会（八月十五日）、秋季彼岸会（九月）、報恩講法要（十一月二十三日）が勤修されます。

また、毎月九日の午後一時三十分からの法話会には、たくさんのお門徒の皆様がご聴聞に参拝されます。お法を頂いた後のお茶会では、本堂が楽しいおしゃべりでいっぱいになります。

毎年五月には、親鸞聖人の御旧跡を訪ねる参拝旅行が行われ、見学地周辺の味覚や温泉を楽しみながら、親睦を深めています。また、気候の穏やかな

季節に不定期に開催される「真遊会（お散歩の会）」では、川越や岩槻などの歴史ある町並みをゆっくり散策したり、時には、浅草でおいしい天ぷらを食べるなど、参加してくださいださった皆様と楽しいひとときを過ごしています。その他、毎週月曜日には地元女性コーラスグループが本堂で練習し、豊かな歌声を響かせています。毎週火曜日の健康教室も人気の行事です。さらに、年末のお餅つきには、大勢の皆様が参加され、元気なかけ声が境内にあふれます。

真応寺では、法要や法話会の最後に、仏教讃歌や心の温まる歌を、皆さんで歌うことが恒例となっています。住職の歌声に合わせて、参拝の皆様が元気な歌声が本堂いっぱい響きます。また、音楽法要を勤修したり、行事のアトラクションとして、プロのマリンパ奏者による演奏や音楽大学生によるミニコンサートが計画されるなど、お念仏と音楽のあふれる寺を目指しています。



音楽のあふれるお寺です（はなまつりアトラクション）